

アフリカから アートを 売り込む

研究と企業の
活動から考える
現状と展望

20世紀後半以降、美術やアートをめぐるマーケット、また学問状況は目まぐるしく変化しました。しかし、文化的価値の相対性が認識され叫ばれる一方で、文化とアートの領域における「アフリカ」の状況や認識はどの程度変化してきたのでしょうか？ 本シンポジウムでは、美術市場や美術業界にてサハラ以南のアフリカに由来するアートの「紹介」「プロモート」「販売」に対して実践的な形で取り組んできた関係者や研究者らに協力を依頼し、これまでの個々の経験や研究、見解、さらには現代の状況や今後の展望を踏まえつつ、アフリカに由来する「アート」を日本の人々の関心へ、学界へ、そして市場へと「売り込む」ためにはどのような経路があり、何が必要であり、何が可能であるのか、共に考えることを目的としています。

プログラム

17時20分 閉会の挨拶

討議及び質疑応答

制作に従事して得られる賃金
ケニア・グシイのソープストーン彫刻の制作現場から

板久梓織（首都大学東京）

アフリカ製品プロジェクト
ティンガティンガアートを通して

安斉晃史（株式会社バラカ）

緒方しらべ（国立民族学博物館）
アートの価値を判断するナイジェリアの地方都市の事例から

15時25分 コーヒーブレイク
15時40分 第二部制作と参与の現場から

討議及び質疑応答

植民地状況下のアート
ダオメ王国文化とツーリストアート

柳沢史明（東京大学）

川口幸也（立教大学）
闇の奥のアート アフリカの同時代をかたる

小川弘（株式会社東京かんかん）
アフリカの仮面や民具の収集と日本のマーケット

13時30分 趣旨説明
13時45分 第一部歴史と受容の現場から

東京大学本郷キャンパス
文学部一大教室
入場無料・事前申し込み不要

会場

日時

2019年12月7日（土）
13時30分▽17時30分

科研費
KAKENHI